



山 形 県

山形県ってこんなトコ

さくらんぼの里、もう一つの日本「やまがた」

山形県は、東北地方の日本海側に位置し、東京から概ね北に 300km、山形新幹線で約 3 時間の距離にあり、一般には、全国生産量の 7 割を占める「さくらんぼ」と鮮やかな四季で知られています。

蔵王、月山、鳥海、吾妻、飯豊、朝日と日本百名山に数えられる秀麗な山々に囲まれ、南から連なる米沢、山形、新庄の各盆地と庄内平野を「母なる川」、最上川が流れる、美しい自然に恵まれた地域です。ここでは、人の住む集落、市街地と農地や里山が綾をなし、自然と人間が調和して存在する、「もう一つの日本」が広がっています。

江戸時代、俳聖・松尾芭蕉は「奥の細道」の全行程 156 日のほぼ三分の一にあたる 43 日間を山形県で過ごし、その旅は出羽三山を目指した「心の旅」とも言われるように、いにしえの昔から、山形県は精神文化の地とあがめられてきました。

全国第 9 位の 93 万 ha の県土面積は、その地勢や江戸時代の幕藩体制のなごりから、方言や食べ物など、文化も少しずつ異なり、南から、置賜(おきたま)、村山(むらやま)、最上(もがみ)、庄内(しょうない)の 4 つの地域に大きく区分されています。
(山形県 HP より転載)





山形県の獣医師職員

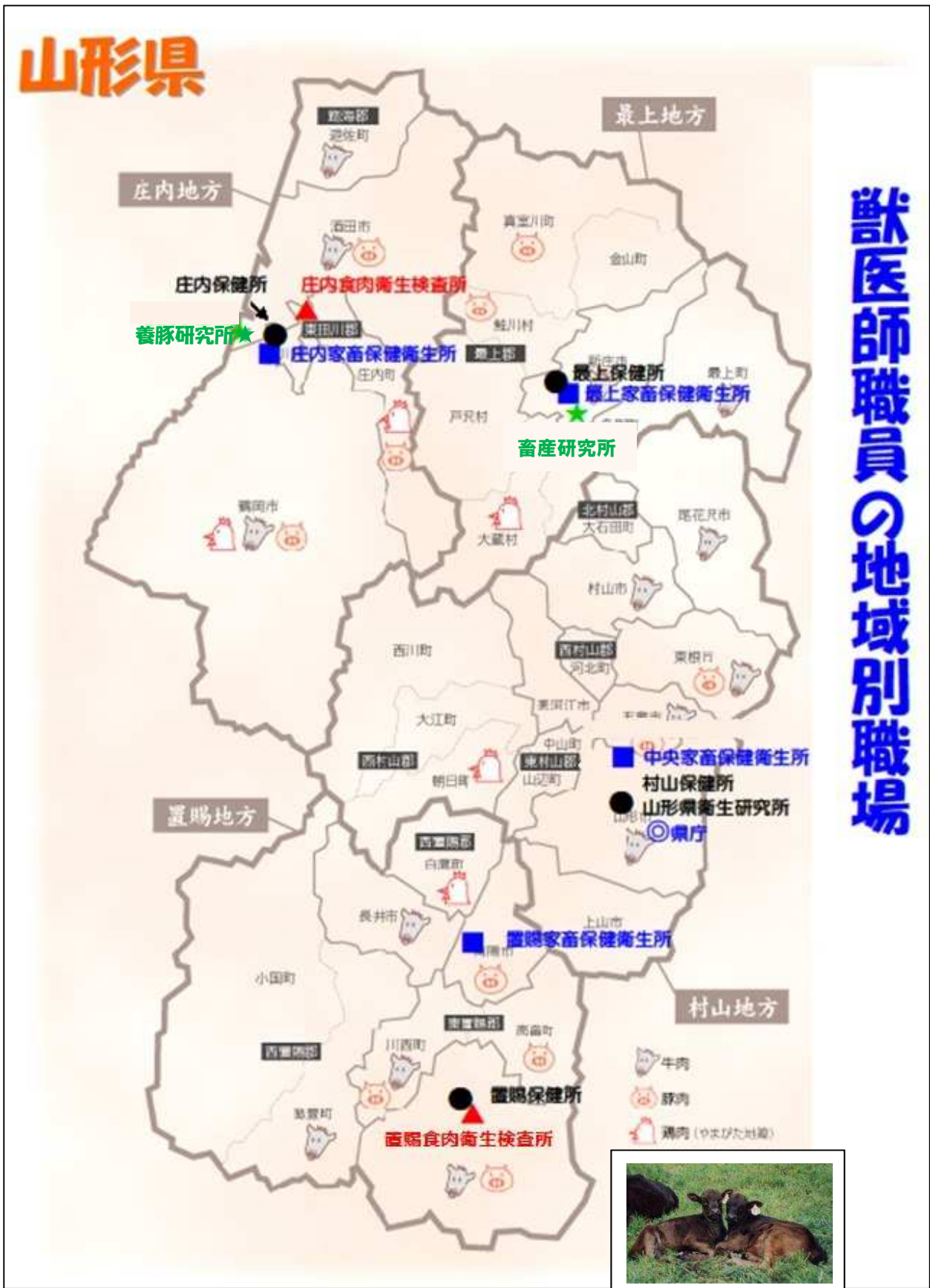
◇山形県の獣医師職員の配属先◇

1	防災くらし安心部	食品安全衛生課	3名
		食肉衛生検査所（置賜・庄内）	23名
2	健康福祉部関係	保健所（4カ所）	13名
		衛生研究所	4名
3	農林水産部関係	畜産振興課	3名
		家畜保健衛生所	41名
		（中央、最上、置賜、庄内の4カ所）	
		畜産研究所	3名
		養豚研究所	1名
合 計			91名

獣医師 — ヒトと動物の「生命」を科学的に見つめるスペシャリスト —

獣医師の職務は幅広い分野に及びますが、いずれの職務もヒトや動物の「生命」や「健康」と密接な関係にあります。具体的な職務には、畜産に関係する分野として、家畜の伝染病の予防や家畜疾病等の病気の診断【家畜保健衛生所】、家畜・家禽の改良および研究等【畜産研究所、養豚研究所】や、公衆衛生に関係する分野として、食品衛生の確保や動物愛護の普及啓発【保健所】、人獣共通感染症の研究等【衛生研究所】、と畜検査【食肉衛生検査所】があります。いずれも獣医学で培った技術や知識を大いに発揮できる職務内容です。近年、全国あるいは全世界的に問題となっているCSF（豚熱）・ASF（アフリカ豚熱）、牛海綿状脳症（BSE）や高病原性鳥インフルエンザ、そして口蹄疫などの対策で中心的な役割を果たしているのは獣医師であり、今後も幅広い分野での活躍が期待されています。また、獣医師を配置した研究施設が畜産、公衆衛生の分野ごとに設置されており、研究施設以外の職員に対しても各種研修制度が設けられ、学会等への参加も盛んです。

山形県の獣医師の職場



<<山形県の獣医師の募集に関するQ&A>>

Q:令和5年度の獣医師の受験案内はいつ出るの？

A：令和5年4月28日に公開されました。インターネットで検索、ダウンロードができます。また、「やまがたe申請」上でインターネットによる受験申込ができます。

山形県ホームページ

<https://www.pref.yamagata.jp/930001/kensei/recruit/saiyoujouhou/kennoshokuin/saiyosikentop/index.html>

Q:給料はどうなるの？

A：山形県に採用された獣医師の初任給は、**約25万円**（月額3万円の初任給調整手当を含む）となりますが、ほかに、家畜保健衛生所又は食肉衛生検査所勤務の場合、**16,000円~24,000円**が「給料の調整額」として支給されることとなり、年収（県人事課試算）でみると、全国上位となっております。

Q:どんな職場があるの？

A：大きく農林水産部関連職場と健康福祉部・防災くらし安心部関連職場があります。具体的には、家畜保健衛生所・畜産研究所・養豚研究所、保健所・衛生研究所・食肉衛生検査所などがあります。

ちなみに、山形県職員として活躍している獣医師は、91名（令和5年4月1日現在）です。

Q:夏休みなどに、そちらの職場を見せていただけますか？

A：大歓迎です。日程や希望に合わせて調整をいたしますので、是非御相談ください。お待ちしております。家畜衛生対策推進協議会（事務担当：中央畜産会）が行っている行政体験研修（インターンシップ）の受入れも行っています。

※ 新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、インターンシップ等の受入れが出来ない場合がありますのでご了承ください。

連絡先：

農林水産部畜産振興課（県庁内）

023-630-3350

担当 森 大輝

防災くらし安心部食品安全衛生課（県庁内）

023-630-2677

担当 片桐 謙

<<給与・福利厚生(山形県獣医職)>>

○初任給^{*}(R5.4.1 現在)

衛生研究所	279,100 円
食肉衛生検査所	277,000 円
家畜保健衛生所	269,000 円
畜産研究所	260,300 円
養豚研究所	260,300 円
上記以外	253,000 円

※月額 30,000 円を限度とした初任給調整手当、職種に応じた調整額を含む。
他に住居手当、通勤手当、時間外勤務手当、扶養手当等の諸手当が要件に応じ支給されます。



○期末・勤勉手当(ボーナス R5.4.1 現在)

6. 12 月に計 4.35 月分

○健康管理

各種健康診断
メンタルヘルス

○休暇関係(一部抜粋)

土、日、祝日休み(カレンダー通りの休暇)

有給休暇 年 20 日(最大 20 日繰越可:合算 40 日)

夏季休暇 年 6 日(7~9 月に取得)

リフレッシュ休暇 5 日(30, 40, 50 歳になる年)

リフレッシュ年休 3 or 5 日^{*}(35, 43, 47, 53, 56 歳になる年)

※有給休暇の内数として

結婚休暇 7 日

育児休暇 最大 3 年(1 歳まで育休手当金あり)

男性職員の育児参加休暇 5 日

家族看護休暇 年 5 日

忌引休暇 最大 10 日



山形の んめもの(美味しいもの)



さくらんぼ



ラフランス



板蕎麦



山形牛

■獣医師の職場■ ■ 家畜保健衛生所



平成27年度採用

白鳥孝佳 獣医師

(現：県庁畜産振興課 主査)

担当業務(庄内家畜保健衛生所当時)

庄内家畜保健衛生所では、家畜の伝染病の予防のための検査や、飼養管理についての指導、疾病や伝染病の診断、獣医事に関する業務を行っています。その中で私は防疫担当として、伝染病の検査や農場に立入っての指導等を行っています。

県職員を志望した理由は何ですか？

獣医師として真っ先にイメージするのはやはり臨床だと思います。実際、私も卒業後は小動物臨床の道へ進み、その後、現職に就きました。しかし、獣医師の職域は多岐にわたり、公務員獣医師はその中の一つです。

家畜の健康、食の安全・安心を守る公務員獣医師は、生活の根幹を支えており、目に見えないところでも多くの人の役に立っています。どこかのだれかの笑顔につながる、そんな仕事に魅力を感じました。

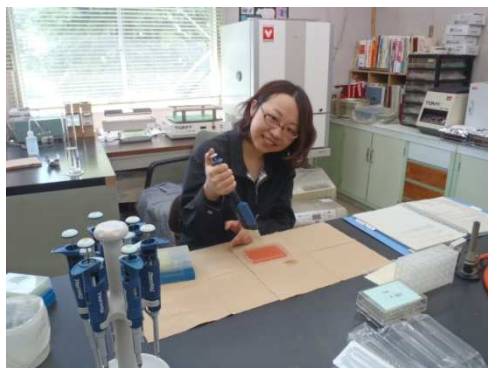
受験者へのメッセージ

獣医師としてこういった職に就こうか悩んでいる方も多いと思います。山形県の公務員獣医師には様々な職歴の方がおり、研修制度も整っているので、だれでも職場になじみやすい環境にあります。また、休暇制度や福利厚生がしっかりしているので、公私ともに充実させることができます。

ここには書き切れない山形の公務員獣医師の魅力がまだまだ沢山あります。皆さんとともに山形で働ける日を心待ちにしています。

- | | | |
|-------|-----------|-------------------------|
| 8:30 | 業務開始 | (日程確認、立入準備を行います) |
| 9:00 | 農場へ出発 | (農場へ向かいます) |
| 9:30 | 農場到着、立入検査 | (農場で聞き取り、指導、検体の採材を行います) |
| 12:00 | 家保帰着、昼休憩 | (午後の英気を養います) |
| 13:00 | 検査開始 | (午前中に採材した検体の検査を行います) |
| 16:00 | 文書整理 | (検査に関係する文書を作成します) |
| 17:15 | 業務終了 | |

■獣医師の職場■ ■ 家畜保健衛生所



平成26年度採用
土谷真実 主任獣医師
(置賜家畜保健衛生所)

現在の担当業務(置賜家畜保健衛生所)

私が勤務している置賜家畜保健衛生所では、家畜の伝染性疾病の発生を予防するための検査・指導、不明疾病の原因究明、動物薬事に関する調査・指導、公共牧場の放牧衛生管理指導などを行っています。私は防疫担当として、家畜を飼養している農家の衛生指導や、ヨーネ病、牛白血病、オーエスキー病など様々な病気の検査を行っています。

採用後1年経過し思ったこと

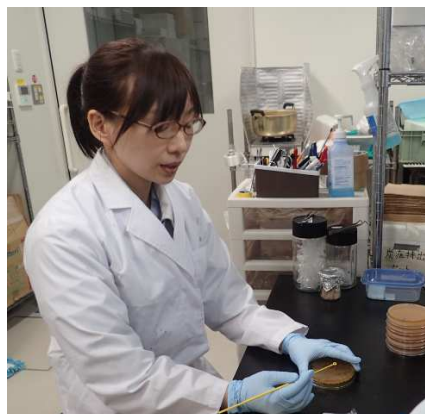
私は家畜保健衛生所の仕事については大学時代にインターンシップに行くまでほとんどといっていいほど分かりませんでした。その後家畜保健衛生所に勤めた知り合いから話を聞いたりしてなんとなく仕事内容を掴んだつもりで就職しましたが、いざ採用されて働き始めてから、こんなにも仕事内容が広い職場だったんだと驚きの連続でした。すべての作業が初めてで、家畜にも触れ慣れていなかったため不安でいっぱいでしたが、職場の上司の方々、更には農家の方々からたくさん助けていただいてあっという間の1年間でした。

これからは、今までより余裕を持って、広い視野で責任感を持って仕事をしていきたいと思っています。

受験者へのメッセージ

獣医師の職域は多岐にわたっていますが、その中でも県の獣医師は、家畜伝染病予防及びまん延防止、そして食品の安全に関わる、なくてはならない仕事を担っています。農家さんや市町村の方々など様々な人とも接し、多くの経験を積むことができます。また、福利厚生も充実しており、女性にとって安心して長く働き続けられる職場だと思います。ぜひ山形県で一緒に働きましょう！

■獣医師の職場■ 家畜保健衛生所



(病性鑑定担当)

平成16年度採用

大橋郁代 技術主査

(現：置賜家畜保健衛生所)

現在の所属と担当業務(中央家畜保健衛生所当時)

中央家畜保健衛生所は蔵王連峰が見渡せる山形市にあり、獣医師16名と庶務担当2名の計18名で構成されます。県内4か所ある家畜保健衛生所の中で唯一、細菌・ウイルス・生化学・病理の4部門の精密検査を行う病性鑑定施設を有し、山形県内の96ヶ月齢以上すべての死亡牛のBSE検査も行います。この中で現在、私は細菌検査業務を担当しています。細菌分離培養や抗体検査はもちろんのこと、迅速かつ高感度な診断法として遺伝子検査等を利用し、家畜の細菌性疾患の原因究明・診断を行っています。

県職員としての仕事のやりがい・魅力

県職員獣医師としての魅力は仕事の幅の広さにあると思います。家畜保健衛生所だけでも検査業務の他に、家畜伝染病のサーベイランスを通して地域全体の清浄化を進めたり、畜産農家さんとの出会いを通して慢性的な感染症を減らす手伝いをしたり、高病原性鳥インフルエンザや口蹄疫の対策や動物病院開設届の受付など、フィールドや検査室から法律に関わる事務まで多様な業務があり、いつも新鮮な気持ちで取り組みます。公務員として出産や育児へのフォローが手厚く、長女が病気がちだった頃などは想像以上に有り難く感じました。

細菌担当はまだ駆け出しですが、思うように検査が進まないときに文献を参考にして解決できたときなど1人ささやかな喜びを感じています。変わっていく持ち場で新たな仕事を一つ一つ体験していけることも大きな楽しみだと思っています。

受験者へのメッセージ

大学で学んだ知識と技術が役に立ち、獣医学が実学だと実感できる、やり甲斐のある仕事です。一緒に楽しく仕事をしましょう！

■獣医師の職場■ 食肉衛生検査所



平成27年度採用
福士昂 獣医師
(庄内食肉衛生検査所)

現在の担当業務(庄内食肉衛生検査所)

私が所属している庄内食肉衛生検査所では、安全な食肉の流通の確保のために、牛や豚等の家畜を対象とした「と畜検査」を行っています。

私は検査指導課に所属しており、と畜場や付設の食肉処理施設に対する衛生指導業務、調査研究業務や検査で得られた疾病データを生産者等に還元する業務などを担当しています。

県職員になって思うこと

山形県獣医師として、庄内食肉衛生検査所に配属され1年が経過しました。職務の一つに「と畜検査」という仕事があります。と畜検査は、食肉となる豚や牛等を一頭一頭検査して合格したものだけを流通させる、言わば関門のような重要な存在です。私は、山形県衛生獣医職員として働いてから人間の生活に必要な「食」について様々な視点で考えることができ、私たちの仕事が消費者の安全確保や安心の醸成につながっていることを身近に感じることができました。初めての社会人で不安なことはたくさんありましたが、上司や先輩の支えのおかげで安心して仕事に取り組むことができます。と畜検査は常に責任を問われる仕事ですが、とてもやりがいのある仕事だと思います。

受験者へのメッセージ

公務員獣医師は大学で学んだ様々な専門的知識が活かされていることを肌で感じられる世界だと思います。また、休暇制度や福利厚生が充実しているので、計画的に自分の趣味の時間を作ることもできます。山形県には豊かな大自然の恵みを受けた四季を味わえる美味しい食材がいっぱいあります。公務員獣医師がどのような仕事をしているか分からない方もいらっしゃると思います。まずは、山形県のインターンシップ制度を利用して職場の雰囲気を感じてみてください。皆さんと一緒に山形県で仕事をできる日を楽しみにしています。

■獣医師の職場■ 食肉衛生検査所



平成26年度採用
菅井 透 主任獣医師
(庄内食肉衛生検査所)

現在の担当業務(庄内食肉衛生検査所当時)

庄内食肉衛生検査所では、消費者に安全で衛生的な食肉を提供するため、と畜場に搬入された牛や豚等の家畜が食肉になるまで1頭ごとにと畜検査を行い疾病排除に努めるとともに、と畜場内の衛生監視指導も行っております。私は試験検査課に所属しており、主にと畜検査業務、細菌検査及び食肉の安全性向上のための調査研究を行っております。

県職員としての仕事のやりがい・魅力

公衆衛生獣医師というと試験室内検査や事務的な仕事をやっているイメージが強かったのですが、と畜検査の仕事は、1日の半分以上現場に立ち、家畜1頭1頭を頭と体をフル活用して検査しています。前職(小動物臨床)とは全く異なる環境に、当初不安はありましたが、経験豊かな先輩方の熱心なサポートのおかげで安心して仕事に取り組むことができます。また、この仕事を通じてこれまで以上に様々な人達と関わる事ができ、「食の安全・安心を守る」という以前とは違う視点で社会と関わる事で学ぶことは多く、やりがいのある充実した毎日を送っています。

受験者へのメッセージ

私は民間の動物病院で小動物臨床の仕事を経験した後に、36歳で山形県職員に転職しました。獣医師の職域は非常に広く、臨床以外にも社会に役立つ仕事がたくさんあります。公衆衛生獣医師もその1つです。現在の職場には、私以外にも小動物臨床に携わっていた人や研究職に就いていた人など様々な経歴の先輩がおり、これから大学を卒業する方はもちろん、転職を考えている獣医師の方も安心して働ける職場です。ぜひ、山形県で一緒に働きましょう！！

■獣医師の職場■ 保健所



平成31年度採用

片桐謙 獣医師

(現：食品安全衛生課)

担当業務(庄内保健所当時)

私は庄内保健所で衛生獣医師として、主に食品衛生業務、狂犬病予防業務、動物愛護業務を担当しています。

食品衛生業務としては、飲食店(旅館、食堂、居酒屋等)、食品販売施設(魚、肉、乳等)、食品製造施設(菓子、そうざい等)の開設相談、申請受付、立入検査等を行い、施設の基準を満たしているか等を確認しています。食品関係業者や一般消費者に対して食品衛生講習会も行っています。

狂犬病予防業務としては、飼い主が見つからない犬の捕獲や、飼い主に対する登録・狂犬病予防注射の指導等を行っています。

動物愛護業務としては、飼い主が諸事情で飼えなくなった犬、猫の引取り、負傷動物の保護、動物取扱業者(ペットショップ等)への監視指導等を行っています。収容された犬、猫は、譲渡判定を行い、新しい飼い主へ譲渡しています。

県職員としての仕事のやりがい・魅力

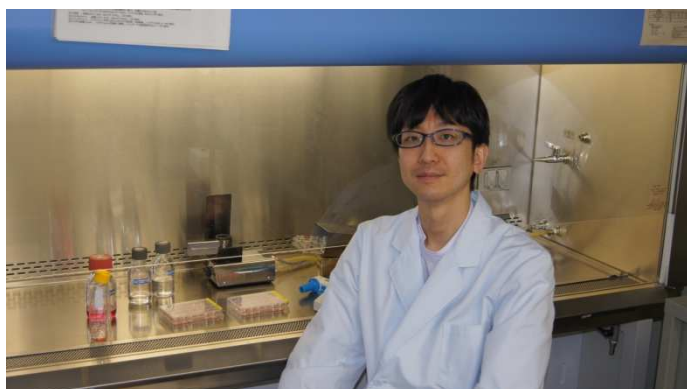
保健所における獣医師の業務は主に公衆衛生分野にあたります。獣医学の中ではどうしてもマイナーに捉えられがちな分野なのですが、食品営業施設の衛生監視や、食中毒事件発生時の調査・対応などの業務を通して、臨床の現場では得られない、県民の方々の健康を支えているという充実感を感じることができる点が魅力的だと思います。

また、保健所における獣医師は、食品衛生業務の他に動物愛護・管理業務も行います。動物病院にて怪我や病気の動物が必死に救われている一方で、全国では飼い主の身勝手な事情で飼えなくなった健康な犬・猫が多く処分されているのが現状です。近年、これらの殺処分を少なくしようと環境省、各自治体、動物愛護団体が殺処分を減らそうと努力しています。このような状況の中で、保健所で勤務する獣医師として、最前線で飼い主に対する飼い方指導、動物取扱業者に対する適正な取り扱いを指導することで、命を救うことができることに非常にやりがいを感じます。

受験者へのメッセージ

公務員獣医師は一か所の職場のみに勤務するのではなく、数年に一度転勤があります。そのため、臨床分野から公衆衛生分野まで、自分が持っている獣医師としての知識・技術を余すことなくフルに活用することができます。様々な分野で活躍できる獣医師を目指してみませんか？皆さんと一緒に仲間として働けることを期待しています！

■獣医師の職場■ 衛生研究所



平成21年度採用

的場洋平 主任専門研究員

現在の担当業務(衛生研究所)

私が所属している微生物部ウイルス担当では、医療機関がウイルス感染を疑った患者検体の検査（ウイルス培養、遺伝子検査など）や、ウイルス性食中毒疑い事例の検査などを行うことで、県内におけるウイルス感染症/食中毒の動向把握を行っています。

県職員としての仕事のやりがい・魅力

大学時代の微生物学的知識を最大限に活かして、各種検査・分析を行う日々はとても充実しています。加えて、公衆衛生を担う衛生研究所としては、単に与えられた検査を行うだけでなく、それらデータをまとめて世に公開することも大事だと思っています。インフルエンザ、麻疹、結核、つつが虫病などの様々な感染症に関する論文を継続的に世界に発信している先輩方（2016年度は論文10本報告）に倣（なら）い、私もいわゆる風邪の原因ウイルスの1つである「コロナウイルス」の研究を進め、3年間で4報の論文を出すことができました。ゆっくりではありますが確実に成長している自分を感じられる衛生研究所微生物部は、私にとって本当に大切な場所です。

また、最近ではジカ熱や各種ダニ媒介感染症などの動物由来感染症が問題になってきていることもあり、微生物部では、実験室からフィールドに飛び出して動物由来感染症に関する検体（マダニ、野生動物の血液など）を採取・解析することも行っています。「なぜ、獣医師がヒトの感染症をするのか？」とお思いの方もいるかもしれませんが、私は、獣医学的・微生物学的専門知識を有する獣医師は、衛生研究所にとって欠かせない存在であると確信しています。

受験者へのメッセージ

「地方公務員になって、獣医学部で勉強したことが役に立つの？」と疑問に思っている方、全く心配は要りません。ものすごく役に立ちます。また、微生物部の先輩には、地方公務員として働きながら（給料をいただきながら）学位を取得した方もいます。「地方公務員」は、より高みを目指したいと思っている学生さんにとっても魅力的な就職先です。

さあ、山形県のために、そして日本、世界のために私たちと一緒に働きましょう！

■獣医師の職場■ 農業総合研究センター 畜産研究所



(旧畜産試験場)
平成24年度採用

丹 恵 研究員
(現：庄内家畜保健
衛生所)

担当業務(畜産試験場当時)

畜産試験場には、家畜改良部(肉牛)・飼養管理部(乳牛と地鶏)・草地環境部の3つの部があり、研究員17名のうち獣医師が6人所属しています。

畜産試験場の役割は、「農家のためになることを試験研究し、還元すること」です。

私の所属していた飼養管理部では、乳牛約40頭と鶏約1000羽を飼養し、日々それぞれの研究にいそんでいます。例えば、乳牛に給与する餌によって牛乳の味はどう変わるのか、地球温暖化の影響が乳牛にどのように現れるのか、県産地鶏である「やまがた地鶏」のおいしさの向上と飼料費節減はどうすれば良いか・・・などなどテーマは多岐にわたります。

また、家畜改良部では、先端技術を活用した山形牛のブランド強化を目指し、美味しい牛肉を生産するための技術開発に関係する研究を実施するとともに、優良種雄牛の造成、凍結精液および体外受精卵の生産供給などの事業を行っています。

県職員としての仕事のやりがい・魅力

畜産試験場の良さを一言で表現するとすれば、「自分で試験研究する家畜を毎日見ることができること」に尽きると思います。自分で選んだ種雄牛を交配して生まれた子牛は、たった2年で驚くほど大きく成長し、分娩して生乳を生産します。牛1頭ごとに餌の好き嫌いがあったり、時には調子が悪くなったり、試験研究でさまざまな反応を見せたり、その変化を自分で毎日見て触って考え、そして自分で考えたことを行動に移すことができる、これほど幸せな職場はないと思います。また、農家との接点も多く、自分の試験研究や疑問に思っていることについて意見交換ができることも仕事のやりがいにつながります。

受験者へのメッセージ

畜産試験場、公務員と聞いてもいまいち仕事内容にピンとこないと思いますが、山形の良さ、畜産試験場の良さは来ていただければ直ぐにわかります。

明るく楽しく元気な職場で一緒に働きましょう！ Let it go！

(旧養豚試験場)

平成8年度採用
齋藤友佳 課長補佐
(現：最上家畜保健衛生所)

**担当業務(養豚試験場当時)**

農業総合研究センター養豚試験場は、全国で唯一「養豚」と名のつく、豚に特化した試験場です。試験場のある山形県庄内地域は昔から養豚業が盛んで、地域産業の発展に長く貢献しています。研究員は場長を含め4名(うち獣医師2名)と少人数ですが、豚人工授精の効率化に関する研究や、豚慢性疾病の診断技術開発に関する研究、暑熱ストレス軽減による飼養効率改善技術に関する研究など、生産性の向上に寄与する試験研究を行っています。また、豚の産肉能力検定や優良種雄豚の精液配布等の豚改良事業も行っています。私の現在の担当は、豚人工授精精液の効率的利用法、ならびにローソニア感染症の農場動態に関する試験研究、また試験種豚の計画交配や精液配布、場内の衛生管理や防疫対策と多岐に渡っています。更に学会や研修会等での発表など、技術指導や学術的な活動も行っています。

**県職員としての仕事のやりがい・魅力**

私の仕事は豚に直接触れながら幅広く学び経験して、自分のスキルを高めることができる、そして地域の養豚振興にも携わっていける素晴らしい職種です。また私は県職員として家畜保健衛生所と食肉衛生検査所に勤務した経験もあります。それぞれ目的や仕事内容は異なりますが大きな柱は変わらず、生産者と手を携えて地域へ貢献することが最終目標だと思っています。そこが一番の魅力であり、「ありがとの～」と農家の方から言っていたのが一番の喜びです。

生活面では、公務員は手当や休暇制度が充実しているのはご存じだと思います。私は現在中学生と小学生の子供がおり、どちらの出産後も育児休暇を取ることができました。しかし何より職場の方々の理解と支えがあったため、仕事も頑張りながらしっかり育児もすることができました。子供たちはそんな頑張る母の姿を見て育っていると思います(?)。また男性でも育児休暇を取ることができ、実際に取っている職員も増えてきています。

**受験者へのメッセージ**

仕事も家庭も両立できる環境の中、自然豊かな山形県で獣医師として、公務員として、家庭人として、充実した魅力のある仕事を一緒にしてみませんか？

研究発表

●農林水産部

「畜産関係業績発表会」 令和4年度発表演題

日常業務に関連した事業、調査、研究等の業績について、発表討議を行い、今後の畜産関係事業の改善向上に資することを目的とし、毎年実施している。

- 1 牛ヨーネ病長期対策農場における清浄化対策
- 2 大規模酪農場の効率的採血方法の検討
- 3 県内最大規模養豚場における豚熱ワクチン接種と免疫付与状況確認検査に基づく指導
- 4 最上家保の持続可能な組織体制づくり
- 5 高病原性鳥インフルエンザ発生農場の人員体制の検証と効率的タイムスケジュールの検討
- 6 山形県における豚熱ワクチン 30 日齢接種の適正調査
- 7 牛伝染性リンパ腫ウイルス感染牛の末梢血中白血球パラフィン包埋標本を用いた免疫組織化学的分析
- 8 糞便中のヨーネ菌に対する消毒後の生菌数と DNA 量
- 9 *Bibersteinia trehalosi* による子牛の化膿性髄膜炎
- 10 県内で 16 年ぶりに発生した豚の流行性脳炎と HI 試験法の検討
- 11 県内病性鑑定豚由来 *Streptococcus suis* の解析

●防災くらし安心部

「食品衛生・生活衛生研修会」 令和4年度発表演題(抜粋)

- 1 横紋筋に結節性病変を認めた牛の 3 症例
- 2 漬物製造業の許可取得に向けた HACCP 講習会 IN 最上の開催について
- 3 集団生活を送る施設での食中毒疑い事案について
- 4 新省令施行に向けた犬猫等販売業者への指導状況の報告
- 5 最上管内の多頭飼育問題に対する社会福祉と動物愛護管理の多機関連携に向けて

●受賞歴

日本獣医師会獣医学術賞 獣医学術奨励賞

「全身皮下気腫を呈し死亡した子牛からの *Paeniclostridium sordellii* の分離」 中央家畜保健衛生所 大橋郁代 R3

東北地区獣医師大会・三学会(地区学会長賞受賞)

「豚抗 *Lawsonia intracellularis*(L.i)抗体検出 ELISA 法の血清疫学調査への応用」 養豚試験場 齋藤友佳 H28

「*Mycoplasma bovis* のマクロライド耐性機構の解明と簡易検出法の開発」 中央家畜保健衛生所 小嶋 暢 H29

「と畜場搬入肉豚から検出された豚丹毒菌の由来調査」 庄内食肉衛生検査所 横内耕 H29

「絨毛心を呈したヒストフィルス・ソムニ感染症例とその発症機序の検討」 中央家畜保健衛生所 古田信道 H29

「山形県内と畜場における健康豚の *Escherichia albertii* 保菌状況及びその疫学的特長」 庄内食肉衛生検査所 佐藤 空見子 H30

東北地区獣医師大会・三学会(東北獣医師会連合会会長賞)

「山形県における犬猫由来マダニのマダニ媒介感染症病原体遺伝子保有状況」 衛生研究所 瀬戸順次 H30

平成 26 年度日本結核病学会(研究奨励賞)

「接触者健康診断における高齢者に対する IFN- γ 遊離試験の有用性の検討」 衛生研究所 瀬戸順次 H26

●公開論文

- Seto J et al.: A case of laboratory cross-contamination of *Mycobacterium tuberculosis* identified by comparative genomics. *Int J Tuberc Lung Dis.* 22:1239-1242, 2018.
- Komabayashi K et al.: The largest measles outbreak, including 38 modified measles and 22 typical measles cases, Yamagata, Japan, 2017 in its elimination era. *Jpn.J.Infect.Dis.* 71:413-418, 2018.
- Seto J. et al.: Detection of modified measles and super-spreader using a real-time reverse transcription PCR in the largest measles outbreak, Yamagata, Japan, 2017 in its elimination era. *Epidemiol.Infect.* 146:1707-1713, 2018.
- Matoba Y. et al.: The trends of human coronaviruses in Yamagata, Japan, in 2015 to 2016: Occurrence of OC43 outbreak in June 2016. *Jpn.J.Infect.Dis.* 71:167-169, 2018.

各種制度

○研修制度

- 農林水産部

家畜衛生講習会（農林水産省主催；主な開催場所 茨城県つくば市 動物衛生研究所）
基本講習会；2 週間

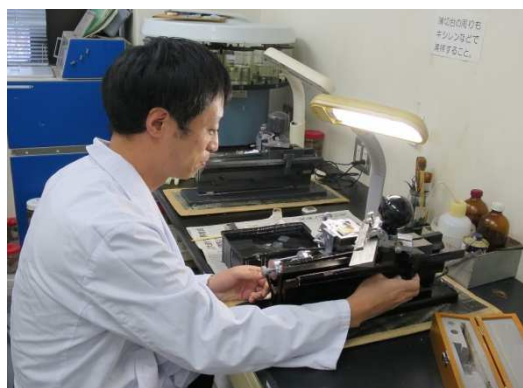
特殊講習会（牛疾病、豚疾病、鶏疾病、獣医疫学、海外悪性伝染病等）；4～10日

特殊講習会（病性鑑定；ウイルス、細菌、病理、生化学）；各約7ヶ月

- 防災くらし安心部

と畜検査員微生物学研修（県単独事業；岩手大学）約1ヶ月

と畜検査員病理学研修（県単独事業；日本獣医生命科学大学）約1ヶ月



○人事交流制度

農林水産部（家畜保健衛生所）と防災くらし安心部（食肉衛生検査所）間で、概ね2年間 互いの職場にて勤務することがあります。

大学講義

高度な獣医学的知識と幅広い視野を有する獣医師は、家畜衛生、公衆衛生等自治体の業務に不可欠な人材であるため、博士号を有する職員等を大学に派遣し、公務員獣医師の職務内容・意義等について講義をおこなっています。

インターンシップ実習の受入

夏休み等の獣医学生の長期休暇時に、公務員獣医師のインターンシッププログラムを準備し、大学講義や大学訪問時に希望者からの連絡先の提供を受けた学生にインターンシップの情報提供を行います。このインターンシップを通じて、山形県と公務員獣医師の業務に対する理解を深めます。

H28年度より、インターンシップ実習に参加する方に、旅費(上限25,000円)と宿泊費(上限1泊5,000円×5泊まで)を助成する制度を設けました。詳しくは、お問い合わせください。



日本一の芋煮会